武蔵野美術大学

二〇〇六年度　文部科学省選定
特色ある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）

# 美術と福祉プログラム　概要紹介

# 真に人間的自由に達するような美術教育を求めて

――学長 長尾重武

まもなく八十周年を迎える武蔵野美術大学は、「真に人間的自由に達するような美術教育」を建学の精神とする帝国美術学校の創立以来、多くの美術教員を送り出してきました。

これからの時代の美術教員には、深い人間への洞察と自由な発想が求められます。このための基盤は武蔵野美術大学全体のカリキュラムの中で育まれるとともに、大学の外でのさまざまな体験を通じて培われるでしょう。介護等体験法にもとづく七日間の体験と教職課程の演習科目とを結合した「美術と福祉プログラム」は、教員を目指す学生たちに、法令が求めるよりも進化した機会を提供できるものとなっています。本学が培ってきた造形ワークショップを社会福祉の現場で生かす試みが、これからの美術教育のあり方に指針を与えることを願っています。

今回、文部科学省よりこのプログラムが本年度の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定されたことは、私たち教職員・学生にとっての喜びであるとともに、永く協力してくださった高齢者、障害者、施設職員の皆様のご援助のお陰であると感謝しています。私たちの取組が、多くの教育や福祉に携わる方々のご参考になることがあればと考え、このパンフレットをお贈りいたします。

# 特色GPの申請・審査結果の書類から

## 取組名称「美術と福祉プログラム 造形ワークショップの展開」

### 取組の概要

美術と福祉プログラムは、武蔵野美術大学の建学の精神である「真に人間的自由に達するような美術教育」に立脚して、現代社会の課題を担う美術教員を養成することを目的としている。介護等体験法の趣旨を踏まえつつ、美術教育の専門性を生かした本学独自の取組として、小平市内の六つの社会福祉施設の提携により実施した。平成十年度より八期八年、造形学部七学科約八〇〇人の学生が参加している。特に、新しい美術教育の可能性として造形ワークショップを位置づけ、美術の楽しさを高齢者・障害者と共有することを目指している。また、社会福祉施設での実践と通年の演習を組み合わせて教育課程上に位置づけ、造形ワークショップの記録とその表現を指導上重視することにより美術教員としての力量形成に効果をあげている。

### 審査状況及び選定理由

この取組は、武蔵野美術大学の建学の精神である「真に人間的自由に達するような美術教育」に立脚した美術教員養成と福祉施設との連携プログラムです。

具体的には教諭の免許に関わる介護体験を、美術と福祉を結びつける造形ワークショップという形でカリキュラムの中に位置づけており、教員のきめ細かいサポート、資料閲覧室の設置などにより組織的に組み立てられた優れた特色ある取組として他の教職課程を持つ大学の参考になると言えます。

今後、外部の評価委員会の設置により、更なるプログラムの深化、発展が期待されます。

財団法人大学基準協会「審査結果について」二〇〇六年八月四日付より

**武蔵野美術大学の沿革**

武蔵野美術大学は、造形学部十一学科と通信教育課程四学科、大学院博士前期課程（修士課程）、博士後期課程、合計約七七〇〇名の学生を擁するわが国最大規模の美術大学です。一九二九（昭和四）年に創立された帝国美術学校以来、五万人を超える卒業生を送り出してきました。

教員養成の分野では、帝国美術学校では師範科を開設して中等教員の養成を行い、戦後の武蔵野美術学校、武蔵野美術短期大学（武蔵野美術大学短期大学部）、武蔵野美術大学ともに教職課程を開設して多くの小中高等学校の教員を輩出してきました。また、旧短期大学部及び現在の造形学部通信教育課程では現職教員のために免許状の上進や他教科免許状の授与のための教職生制度を開設して、教員研修のための重要な役割を果たしています。さらに、美術教育の新しい流れである美術に関するワークショップについても、視覚伝達デザイン学科及び教職課程で一九八〇年代から取り組まれ、そのパイオニア的実績が評価されています。

**特色 GP**

特色ある大学教育支援プログラムの略称。GP は Good Practice の省略。文部科学省が、大学教育の改善・充実の観点から特色ある優れた取組を選定し、選定された取組を広く社会に情報提供することや財政支援を行うもの。

# 複数年にわたるカリキュラムと全学を横断した広がり

美術と福祉プログラムでは、第一期から「美術の楽しさと意義を広く社会に伝える使命」を強調してきました。そのために、本学の建学の精神である「真に人間的自由に達するような美術教育」を担う教員を目指す学生の自覚と能力の向上が求められています。

## ●法令の根拠と本学独自のカリキュラム

「美術と福祉プログラム」の法令上の根拠は、介護等体験法によって小中学校の教員を目指す学生に求められる七日間の「介護等体験」と、教育職員免許法施行規則で規定された社会的な課題についての研究と指導力の向上を目指す「総合演習」です。ほとんどの大学では、介護等体験は社会福祉協議会と都道府県教育委員会によって割り当てられた社会福祉施設五日間、養護学校等二日間のスケジュールで行われます。また、総合演習も、さまざまな課題についてのゼミナールが行われることが通例です。

本学では、東京都社会福祉協議会のご理解をいただいて、小平市内の六つの社会福祉施設と提携して年間を通じて介護等体験を実施しています。九年間にわたる交流は、施設と大学との間の顔の見える信頼関係を作り上げ、高齢者・障害者からみても武蔵野美術大学の学生が来訪することが当たり前になる人間関係を作ることができました。

また、総合演習についても、「教職総合演習Ⅰ」として三十名程度の四クラスを開設し、社会福祉についての研究や発表、討議などの理論的な内容とともに、造形ワークショップについての学習や企画・準備、さらにその記録と表現を組み込むことで、教員としての指導力量の向上を目指す実践的な内容をもつものとすることができました。

## ●長期の交流と指導を実施

介護等体験法で必要な日数は七日間ですが、美術と福祉プログラムでは、四～五月より施設側のオリエンテーションを開始し、グループごとに施設に行くことで、年間を通じて施設でのワークショップなどを行う関係を持つことができました。また、通常は半年で実施される「総合演習」も、本学の「教職総合演習Ⅰ」では通年科目とすることで、四月から翌年一月までの長い期間の学習としました。このことによって、施設と大学で一年間を通じた交流を実現することができました。

美術と福祉プログラムは二年次の学生が参加しますが、十一月と十二月には一年次の学生を対象としたオリエンテーションを実施します。このオリエンテーションでは二年次の学生が施設ごとの内容を説明することで、学生から学生へのメッセージの伝達を行います。こうして、複数年にわたるカリキュラムを実現することにより、教育効果の向上を目指しています。

造形学部 通学課程

- 日本画学科
- 油絵学科
- 彫刻学科
- 視覚伝達デザイン学科
- 工芸工業デザイン学科
- 空間演出デザイン学科
- 芸術文化学科

中学校・高等学校の美術教員の
教職課程認定の７学科

## 美術と福祉プログラムの教育課程上の位置づけ

武蔵野美術大学の建学の精神
「真に人間的自由に達するような美術教育」

造形学部 通信教育課程
- 油絵学科
- 工芸工業デザイン学科
- 芸術文化学科
- デザイン情報学科

選択履修

ワークショップ研究 I
[2 単位]
ワークショップ研究 II
[2 単位]

授業内容の連携

● 教職課程履修者（美術）対象

### 美術と福祉プログラム

年間を通した造形ワークショップなどの研究と実践

**介護等体験**
提携 6 施設

**教職総合演習 I**
A ～ D 4 クラス
[通年 2 単位]

**介護等体験法**
7 日以上の介護等体験

**教育職員免許法**
「総合演習」

## 年間を通じた取り組み

| 学年 | 実施場所 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年 | 大学 | | | | | | | | ● オリエンテーション（2年生による説明の実施） | ● | ● | | 施設の内定 |
| 2 年 | 大学 | 教職総合演習 I（前期） | | | | | 教職総合演習 I（後期） | | | | | 年度報告書の作成 ● 公開展示会（2006 年度より実施） | |
| | 施設 | ● 施設オリエンテーション 年間を通じた造形ワークショップ・各種の行事の支援 | | | | | | | | | | | |

実際の日程は社会福祉施設の日程により、それぞれ異なります。

**●用語解説**

**◎教育職員免許法**
教育職員免許法施行規則に定められた「総合演習」として本学の「教職総合演習 I」が開設されています。同施行規則では「総合演習」は、「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題のうち 1 以上のものに関する分析及び検討並びにその課題についての幼児、児童又は生徒を指導するための方法及び技術を含むものとする」と規定されており、本学では社会福祉や美術ワークショップ等の研究が演習の形態で実施されています。

**◎介護等体験法**
1997（平成 9）年に公布された「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の略称。1998 年度から小中学校の教員を目指す学生は、社会福祉施設や養護学校等での 7 日間以上の介護等体験が義務づけられました。

**◎造形ワークショップ**
ワークショップには作業所、工房、講習会などの意味がありますが、ここでは教師が生徒に教える学校の教室スタイルの教育とは異なり、運営側のファシリテーター（活動を促進する人）が参加者の自主的な活動を支える営みをいいます。造形ワークショップでは、美術等の分野で参加者が造形の楽しさを享受することを重視します。

# 九年間に九〇〇名を超える学生が参加

**美術と福祉プログラムには、第一期から第九期までに九三一名の造形学部学生が参加してきました。この他に旧短期大学部学生三三名が最初の二年間に参加しています。この取組は、小平市内の六つの社会福祉施設の提携によって支えられています。**

## ●廊下での指導からスタート

介護等体験法が一九九八(平成十)年四月から施行されたとき、本学では短期大学部(翌年に改組転換のために募集停止)の一年生が最初の対象となりました。このときは多くのメディアで同法の施行による混乱が報じられていましたが、本学は美術教員養成のために積極的に取り組む方針でのぞみ、「美術と福祉プログラム」の計画をもって近隣の社会福祉施設に呼びかけて賛同を得ました。

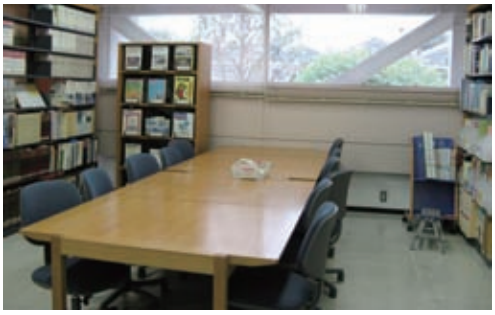
しかしながら、第一期は教育課程上の位置づけがないために、時間割にも印されず、割り当て教室もありませんでした。時間帯は正規授業の前後となり、午前八時や午後六時から、担当教員であった高橋陽一研究室で学生たちの指導が行われ、造形ワークショップの準備は廊下が使われるという状態でのスタートでした。こうした状況にたいし大学として改善を行い、一九九九年度には金曜日五時限目の時間割上に明記して教室を確保し、さらに二〇〇〇年度には単位を授与しない演習科目、二〇〇一年度には単位を授与する正規の演習科目として位置づけられました。

## ●専門家による少人数指導

通年二単位の演習科目「教職総合演習Ⅰ」では、障害児教育や児童福祉の分野での指導経験を持つ造形ワークショップの専門家が担当講師となって指導にあたる体制となりました。また、施設別に三十名程度のクラスとすることで、大学内の演習と施設での介護等体験を組み合わせることが実現しました。たとえば、担当教員とともに施設を訪問したり、施設職員から出された要望や課題を大学の演習で話しあったり、大学で準備した企画を学生たちが施設に提案したりといった相互の関係を築くことができるようになりました。

## ●教職資料閲覧室を設置

また、少人数の指導を実質化し、ワークショップの準備を「表現と記録」を重視した学生の主体的な学習活動とするため、一九九九年四月には教職資料閲覧室が新たに開設されました。教職資料閲覧室は、教職関係の図書や過去の介護等体験の記録類を備えた「閲覧室」、演習や準備を行う「演習室」、造形ワークショップの教材と記録を保管する「資料室」の三室から構成されています。この資料閲覧室の機能によって、学



## 小平市内の６つの提携社会福祉施設

| 施設の名称 | 設置法人の名称 | 施設の種類 | 美術と福祉プログラムの主要な内容 |
|---|---|---|---|
| あさやけ作業所 | 社会福祉法人ときわ会 | 身体障害者作業所等 | 障害児対象の「サマースクール」と各作業所での共同作業などを補助する。 |
| 小川ホーム | 社会福祉法人緑友会 | 特別養護老人ホーム | 入所部門の実習型の体験と行事に連動した造形ワークショップなどを行う。 |
| けやきの郷 | 社会福祉法人黎明会 | 老人保健施設 | 各フロアごとの季節や行事に応じた飾り付けと造形ワークショップなどを行う。 |
| 小平健成苑 | 社会福祉法人平心会 | 特別養護老人ホーム | 造形ワークショップと行事のための装飾やデイサービスの補助などを行う。 |
| 曙光園 | 社会福祉法人<br>全国スモンの会 | 重度身体障害者<br>更生援護施設 | 介護実習と「納涼の夕べ」に連動した飾り付けと造形ワークショップなどを行う。 |
| やすらぎの園 | 社会福祉法人黎明会 | 特別養護老人ホーム | 2グループに分かれて、入所者との造形ワークショップや各種行事お手伝いなどを行う。 |

生が社会福祉についての理論的な学習を行ったり、グループごとに自主的にワークショップの準備作業を行うことが可能となりました。

## ●通信教育課程へ広がる

通学課程でスタートした美術と福祉プログラムは、小平市内の施設との日常的な提携があって初めて実現しました。このため、全国各地に社会人学生がいる通信教育課程では、介護等体験は多くの大学と同じく社会福祉協議会や教育委員会を通じた手続により実施する方式しかできません。

しかし、多くの教職課程履修者が造形ワークショップのあり方を理解して実践的な力量を養成するために、美術と福祉プログラムでの蓄積を生かした教科書『ワークショップ実践研究』を刊行して、二〇〇二年度から「ワークショップ研究Ⅰ」、翌年度から「ワークショップ研究Ⅱ」を開設しました。これらの科目は文部科学省により教職課程の「教科又は教職に関する科目」として認められ、また教職課程履修者以外の学生にも選択履修されています。

## 美術と福祉プログラムの９年間の歩み

| 期及び実施年度 | | 履修者数 |
|---|---|---|
| 第１期<br>1998（平成 10）年度 | ５施設との提携で初めての実施 | １名<br>（短大 32 名） |
| 第２期<br>1999（平成 11）年度 | 教職資料閲覧室を開設<br>６施設に拡大、金曜日５時限目に | 105 名<br>（短大１名） |
| 第３期<br>2000（平成 12）年度 | 「教職総合演習Ⅰ」複数クラスに | 94 名 |
| 第４期<br>2001（平成 13）年度 | 「教職総合演習Ⅰ」2 単位科目に | 135 名 |
| 第５期<br>2002（平成 14）年度 | 通信教育課程<br>「ワークショップ研究Ⅰ」開設<br>『ワークショップ実践研究』刊行 | 106 名 |
| 第６期<br>2003（平成 15）年度 | 通信教育課程<br>「ワークショップ研究Ⅱ」開設 | 129 名 |
| 第７期<br>2004（平成 16）年度 | | 114 名 |
| 第８期<br>2005（平成 17）年度 | | 122 名 |
| 第９期<br>2006（平成 18）年度 | | 125 名 |
| ９期合計 | | **931 名**<br>**（短大 33 名）** |

## 美術と福祉プログラム参加学生数内訳

（）内は短期大学部学生数で外数

| 期及び実施年度 | あさやけ作業所 | 小川ホーム | けやきの郷 | 小平健成苑 | 曙光園 | やすらぎの園 | 小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第１期 1998（平成 10）年度 | (8) | (5) | (8) | | (5) | 1 (6) | 1 (32) |
| 第２期 1999（平成 11）年度 | 20 | 31 (1) | 25 | 5 | 12 | 12 | 105 (1) |
| 第３期 2000（平成 12）年度 | 20 | 20 | 20 | 11 | 9 | 14 | 94 |
| 第４期 2001（平成 13）年度 | 35 | 27 | 21 | 20 | 12 | 20 | 135 |
| 第５期 2002（平成 14）年度 | 27 | 18 | 16 | 16 | 8 | 21 | 106 |
| 第６期 2003（平成 15）年度 | 29 | 24 | 19 | 21 | 14 | 22 | 129 |
| 第７期 2004（平成 16）年度 | 28 | 21 | 17 | 19 | 13 | 16 | 114 |
| 第８期 2005（平成 17）年度 | 33 | 23 | 20 | 17 | 11 | 18 | 122 |
| 第９期 2006（平成 18）年度 | 32 | 22 | 20 | 19 | 13 | 19 | 125 |
| 合　計 | 224 (8) | 186 (6) | 158 (8) | 128 | 92 (5) | 143 (6) | 931 (33) |

# 四クラスの少人数の活動を支援する担当教員

美術と福祉プログラムは、少人数のクラス、さらに施設ごとの小グループによって多彩な実践が取り組まれています。こうした活動を各クラスの担当講師と取組責任者が連携して支援しています。

## 六つの施設と四つのクラスを結んで

**プログラム責任者 教授 高橋陽一**

美術と福祉プログラムの教育課程としての眼目は、介護等体験と大学の授業科目を組み合わせて、社会福祉施設での活動と大学での継続的な指導を結合した点にあります。

これはプログラムを企画構想した一九九八(平成十)年度の第一期からの特徴ですが、初年度、大学での課外の指導として一人だけで担当していたころと比べると、指導が時間割に組み込まれ、さらに正規の演習授業としての四クラス編成へとなるなかで多くの可能性が広がっていきました。とりわけ、岩崎清講師、葉山登講師、杉山貴洋講師がそれぞれの専門を生かして指導に当たっている点が、ワークショップの研究においても、社会福祉の課題の理解においても、効果を上げていると考えています。

現在、四つのクラスと六つの社会福祉施設を結びつけることが大きな課題となっています。とくに、各施設と課題や反省の共有を行い、各クラスを通じた研究課題と次年度に向けてオリエンテーションを実施して、年間を通したプログラム全体の調整をしていくことが私の担当教員としての中心的な活動です。

今後は、さらに外部評価委員会の方々や各分野の専門の講師による御教示を賜り、大学外にも一層開かれた視野を獲得することにより、このプログラムが学生自身による表現と記録の機会として深みを増すように努めたいと考えております。

**たかはしよういち** 武蔵野美術大学常務理事・学長補佐・教授。教育学(日本教育史、国学)を専攻。著書に『道徳教育講義』(武蔵野美術大学出版局)ほか。

## 仲間と行動しながら全身で考え記録する

**教職総合演習ⅠA・D担当 講師 葉山 登**

私が担当している二クラスでは、学生たちに「一人ひとりを大切にすることの実際」を学んで欲しいという願いからグループ活動を基本に進めています。

その手始めに行っているのが共同制作「オリジナル色紙でコラージュ」です。色彩とフォルムによる表現活動は、自身の姿をありのままにさらけ出させる性格をもっていますから、互いを深く理解し合う絶好の機会となり、以後の活動を円滑にさせてくれます。

次に行うのは施設や利用者などについて調べるレポート課題です。知識を広げることは極めて重要です。施設職員からのアドバイスや新しい情報を受け入れる力、そして他者への想像力を高めてくれるからです。

さらには美術の楽しさを施設で活かす交流企画の立案です。企画を立て、試作を作り、企画書を作成します。ここでは、具体化の過程を学び、行動しながら全身で考えることを体験します。

このような準備の上でそれぞれの介護等体験に臨み、体験中は日誌、体験後は交流企画実施の様子や「体験を終えて」のレポートが課されます。最後は総まとめの文集作りです。学生たちは一年間の記録を何度も読み返し過程を振り返る機会を得ます。こうした一年間の演習によって、学生たちが自らの成長を自覚し、自身と仲間の存在を肯定し、「私にもできる」という自己の可能性の発見を育むことをねらいとしています。

**はやまのぼる** 武蔵野美術大学非常勤講師、色彩造形研究所所長。彫刻・美術教育学専攻。著書に『色彩造形教育の実践』(はる書房)ほか。

## 人間性豊かな教師になるために

**教職総合演習ーC担当　講師　岩崎　清**

小川ホームでの介護等体験の実習を通じて、学生たちが未体験の社会経験を積み重ねて、自分を見直し、自己変革の道を歩むことを目的とする。

一般社会とは離れた施設で生活している高齢者や認知症の人びとと出会うことによって、実習生は意思の疎通の困難さを考え、生命や老齢そして孤独など人間の宿命を思い、家庭や共生の意味を問い直し、思いやりや優しさがいかに社会生活に潤いを与える潤滑油であるかということなどに気づく。また、実習中に、高齢者などが普段経験したことのない「美術プログラム」を実践し、学生は「美術」を介在にして入居者とともに新鮮な感動を分かち合う。そうした体験は、学生に他者との差異、生きること、共生、人間が生を営むにあたって、もっとも根本的な事柄は何であるか、そしてまた美術がもつ力などについて深く思索させることになると思われる。それが「介護等体験」で学生が獲得する教科の内容である。

学生の実習が実りあるようにするために、この教科の演習は、前期では介護実習の高齢者施設などにおいて実践する「美術のプログラム」の制作を中心に構成され、後期は学生がその介護等体験によって獲得した自他との差異の発見・自己変革・新たな自己の発見を柔軟な教育思想へと教化させていけるように組み立てられている。

こうした授業の構成によって、「介護」のさまざまな体験は、子どもに対する視点へと質的に転換され、将来、中・高校の教師として立つ学生の人格形成に大いに寄与することになるだろう。いわばこの「介護等体験」は、柔軟で、幅広く、深みのある教師となるための「基礎」を築き上げる実践的な修業過程といえるだろう。

**いわさききよし**　武蔵野美術大学非常勤講師。文学を専攻。単著『ブルーノ・ムナーリのアートと遊ぼう』、共著『四本足のにわとり』、共訳『芸術による教育』（ハーバート・リード著）ほか。

## 制作を通じて

**教職総合演習ーB担当　講師　杉山貴洋**

私たちのクラスの学生は、重度身体障害者更生援護施設・曙光園と特別養護老人ホーム・小平健成苑で実習をしています。二つの施設は、入所者の年齢も生活も異なり、その背景も大きく違っています。しかし、共通していることは、制作を通じたコミュニケーションが実習の大きなテーマになっていることです。そのため、このクラスは、頭と体をつかったコミュニケーションゲームなどを用いて、状況に合わせて、柔軟な造形プログラムができるような工夫をしています。

曙光園では、入所者の方と一緒に、納涼祭に飾る野外ディスプレイや、ポスターを作ります。今年は、このテーマでいきたい、イメージはあるのだけれど、どうやって作ったらいいのだろうか、入所者の方と学生のやり取りから実習が始まります。

また、小平健成苑では、プログラムの運営を学生自身が行います。その日によって、状況が変化するため、柔軟なすすめ方が求められます。思い出に残るものが喜ばれるため、実用的で親しまれるものを提案します。作品が完成し、飾られることが、ご家族への励みにもなるそうです。

実習を終えると、お礼のグリーティングカードを贈ったり、美大の芸術祭に招待をしたり、さまざまな交流を持ちます。

一方で、実習の体験を紙芝居で演じ、後輩や、所属する研究室に伝える課題に取り組みます。学生たちは、自分たちの専門性と介護の実習が、どこかで結びついていることを、体験を通じて理解しているようです。特別なことでも、他人ごとでもない、個人を尊重するという当たり前のことを受け止めたとき、他者に対する思いやりが生まれるのだと思います。

**すぎやまたかひろ**　武蔵野美術大学非常勤講師、白梅学園大学専任講師。編集『ワークショップ実践研究』（武蔵野美術大学出版局）ほか。

# 造形ワークショップは目に見えない準備が大切

美術と福祉プログラムに参加する学生にとって最大の企画は造形ワークショップです。造形ワークショップは、大学での教室スタイルの美術教育とは異なり、運営にあたる側はファシリテーター（活動を促進する人）として一歩退き、教えるのではなく活動を援助する側となります。しかし、それだけにいっそう綿密な準備が必要です。また高齢者や障害者の一人ひとりの状況に応じた配慮が必要です。

このため、十分な準備を大学で行います。まず教職総合演習Ⅰの各クラスでは、造形ワークショップについての学習を行うとともに、社会福祉施設の受入日程に応じてグループに分かれ、共同作業に向けての体制づくりや準備を行います。また一つのワークショップ企画を行うときにも、事前に実物の見本を作成し、分かりやすい企画書を作成します。こうした準備をした上で、まず施設の担当職員を訪ねて説明を行い、意見を伺います。このとき、現場の専門家のアドバイスによって内容を変更したり、工夫したりするのです。

また、実際の造形ワークショップにあたっては、高齢者や障害者の一人ひとりの状況に応じて、必要な援助を行います。たとえば、手を動かすことが困難な方の場合は、学生が対話しながら目の前で作ってみるというのも、実は共同作業と言えるでしょう。こうした表現のプロセス

**共同制作コラージュ**

教職総合演習Ⅰのはじめの時期、まず学生はグループごとの共同作業の体制を作るために、大学の教室内でコラージュ（紙などを組み合わせる表現技法）の制作をしています。仲間と一緒に行動し、共同制作のあり方や、協力し合う意味を考えます。

を文章で記録し、大学にもどって教職総合演習Ⅰのクラス内で発表します。また、レポートや報告集の作成などを行い、造形ワークショップのプロセス自体を自分たちの経験として蓄積していきます。

**交流企画を練る**
教職総合演習Ⅰでは、ワークショップに先立って、グループごとに話し合ったり、それをプランとして作成することを重視しています。

**事前準備の発表**
グループごとに準備したプランを教室で発表している様子です。緊張する場面ですが、口頭での表現、プレゼンテーションの能力も、教員になるためには大切な経験となります。

**交流企画「でんでん太鼓」**
造形ワークショップに先立って作成された実物見本と企画書です。見本は、参加する高齢者や障害者の皆さんに興味をもってもらうためにも丹念に作成します。また企画書は、施設の職員の方に安全性などを検討していただくためにも、分かりやすく図入りで作成します。

**交流企画プレゼンテーション**
施設の担当職員の方に造形ワークショップの企画を学生が説明している様子です。見本や企画書を提示して、説明していくプロセスも大切な学習となります。

**曙光園でのワークショップ活動から**
武蔵野美術大学芸術祭に訪問する車椅子利用者のご案内をしました。また「納涼の夕べ」の飾り付けのお手伝いをしました。

# 社会福祉施設で美術の楽しさを生かす

美術と福祉プログラムの中では、造形ワークショップだけではなく、社会福祉の現場での介護・介助の体験を行います。美術・デザインの分野を専攻する学生として、社会福祉施設での活動を支援する試みも行います。

## ●壁画づくりの工夫

二〇〇五年度の大きな取組として、特別養護老人ホームであるやすらぎの園での壁画づくりがありました。この施設の地下一階の入浴施設は、高齢者の生活にとって重要な介護の場ですが、そこに通じる廊下の壁面は、暗くてじめじめした印象がありました。このため、施設長さんから学生たちに壁面を塗り替える提案がありました。学生たちは検討を重ね、明るいサバンナの壁画にすることを話し合い、長い時間を掛けて壁画を完成させました。この効果で地下の廊下は、楽しい空間として生まれ変わることができました。

このほか、社会福祉施設の行事日程に対応したポスターづくりや飾り付けなど、さまざまな社会福祉施設の活動を支援するための活動をしています。学生たちの意欲と能力が、高齢者や障害者のみなさんにとって、美術の楽しみを分かち合うために生かされることを念願しています。

## ●さらなる改善に向けて

また、社会福祉施設と大学との日常的な連絡のほか、毎年プログラム責任者が施設を訪問し、年度ごとの反省や改善点を検証して、翌年度に生かす取組を続けてきました。今後はそうした取組を一層組織的に行うために、各施

老人保健施設・けやきの郷でのオリエンテーションの様子。介護等体験に先立って、４～５月にクラス単位で施設を訪問してオリエンテーションを受けます。実際の介護や造形ワークショップの前に、担当職員の方から説明や諸注意を受けることで、大学内での準備にも計画的に取り組むことができます。

けやきの郷の２階、食堂の柱の飾り付けです。四季や行事に対応した変化を重視することで、高齢者のみなさんの毎日の生活に刺激を与えることをねらいとして工夫しています。

設の代表者と専門家による「美術と福祉プログラム外部評価委員会」を二〇〇六年十月から設置して、改善のための提言を受ける場としていきます。

**やすらぎの園地下１階の廊下壁画**

2005年度に完成した特別養護老人ホームやすらぎの園の壁画です。以前は左の写真のように白い壁だけで全体に暗い雰囲気ですが、入浴施設への廊下を明るく楽しくすることを目的として、学生たちが上の写真のように制作活動を行いました。下の写真のように、分かりやすく明確なモチーフを使って壁画が完成しました。

# 社会福祉施設で美術の楽しさを生かす

美術と福祉プログラムでは「記録と表現」を重視しています。
「記録と表現」には、造形ワークショップ参加者による表現を記録するプロセスと、その記録をさらに表現するプロセスの二つが含まれています。

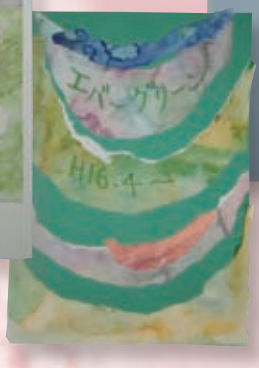
## ●日常の実践を記録する

社会福祉施設での活動は、必ず日誌に記録して、施設の職員の方々に報告します。また、その他にも造形ワークショップや各種活動の記録を作成します。こうした記録作成は、教員としての文章表現能力の向上だけではなく、造形活動を客観化して経験を伝え合うためにも大切なプロセスとなります。

また記録にあたっては、プライバシー・人権や個人情報の保護を学ぶための貴重な場となっており、個人の尊厳や社会連帯の理念を考えるためにも重要な学習プロセスになっています。

## ●記録を分かりやすく表現する

一人ひとりの記録はレポートなどの形で「教職総合演習Ⅰ」の各クラスでの指導に活用されますが、さらにその記録を多くの人たちに伝えるために表現の工夫が行われます。年度末に施設・グループごとに作成する報告書は、文章表現のみならず、表紙や説明図にも工夫して、翌年度以降の学生たちが参考にできることを目指しています。またこうした報告書は施設の職員の方々にも手渡され、感謝の気持ちを伝えることができます。



**介護等体験報告書**

毎年度の各クラス・施設・グループごとの介護等体験報告書は、参加した学生たちにとって大切な宝物になるだけではなく、大学と社会福祉施設を通じた財産です。教職資料閲覧室に保管され、翌年度以降の学生たちにとって一番の参考書となります。

また、一年生を対象にして行われるオリエンテーションでも、各クラスの経験を伝えるために、報告書や口頭での説明に工夫を凝らします。紙芝居の作成に取り組むクラスでは、一〇〇名規模の学生たちに分かりやすく表現する方法、さらには言葉と絵による表現の工夫などを行います。

また、指導に当たる教員も、学生たちの表現と工夫の成果を生かしていくためにも努力しています。二〇〇二年には、教科書『ワークショップ実践研究』を刊行して、多くの成果を通信教育課程の学生と共有できるようにしました。

**『ワークショップ実践研究』**

高橋陽一監修『ワークショップ実践研究』（2002 年、武蔵野美術大学出版局、A5 判、200 頁）美術と福祉プログラムの成果に基づいて、担当教員を中心にした執筆者により刊行しました。生涯学習や海外での例をも収録して造形ワークショップの実例を広く紹介し、教科書としての内容の充実をはかりました。

**紙芝居**

さまざまな体験を文字以外の手段で記録して表現することも、美術教員を目指す学生にとって大切な学習となります。紙芝居の作成は、グループごとの話し合いによる共同制作です。毎年度の１年生のためのオリエンテーションでは注目を集めるイベントとなっています。

**美術と福祉プログラム・スタッフ一覧**

学長　長尾重武

取組責任者　常務理事・学長補佐　高橋陽一

教職総合演習 I

C クラス担当講師　岩崎 清

AD クラス担当講師　葉山 登

B クラス担当講師　杉山貴洋

ワークショップ研究 I・II（通信教育課程）

講師　岩崎 清

講師　前田ちま子

講師　杉山貴洋

教職課程研究室

教授　大坪圭輔

教授　伊東 毅

教授　高橋陽一

教務部（担当事務局）

教務部長　白石美雪

教務部事務部長　羽生龍彦

授業担当課長　福本 章

同課長補佐　杉本貴美

同主管　中村昌彦

教職資料閲覧室

嘱託　吉岡美樹

嘱託　赤羽麻希

外部評価

美術と福祉プログラム外部評価委員会（8 名）

連絡調整

教務学生生活委員会（24 名）

通信教育課程教務委員会（26 名）

2006 年 10 月 30 日印刷発行

編著　高橋陽一　岩崎 清　葉山 登　杉山貴洋

発行　武蔵野美術大学

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

tel. 042-342-6044（教務課）

tel. 042-342-6017（教職資料閲覧室）

制作　株式会社武蔵野美術大学出版局

http://www.fukushi.musabi.ac.jp/gp/

デザイン　清水恒平（office nice）　加藤賢策（東京ピストル）

写真　葉山 登　杉山貴洋　飯田昌子　三本松 淳　岡田卓士

紙芝居画提供　追中加奈　成田小夜子　畑山亜水　三木緋沙子

権田亜樹　坂井智美　丹羽綾子　松下夏美